平成26年度第１回鎌倉市環境審議会会議録

１　開催日時　平成26年８月28日（木）午後１時30分から午後３時30分まで

２　開催場所　第２委員会室（本庁舎２Ｆ）

３　出 席 者　猿田会長、川口委員、内山委員、小田委員、亀山委員、郷原委員、瀬口委員、波多辺委員、平井委員、二松委員、村田委員
（欠席：高野委員）

４　事 務 局　石井環境部部長、植地環境部次長、柳沢課長補佐
田中環境総務担当係長、竹之内主事、澁谷職員、渡辺職員

５　議　　題　(1) 鎌倉市エネルギー実施計画の策定について
(2) 鎌倉市環境基本計画の見直しについて

６　配付資料

当日配布資料

資料 1-1 鎌倉市エネルギー実施計画策定に係る関連事業の実施状況と今後の予定
資料 1-2 鎌倉市エネルギー基本計画の策定について（答申）
資料 1-3 鎌倉市エネルギー実施計画策定スケジュール
資料 2-1 鎌倉市環境基本計画と関連計画の計画期間について
資料 2-2 鎌倉市環境基本計画と関連計画の策定経過・概要について
資料 2-3 第四次環境基本計画の概要
参考資料　鎌倉市花火大会パンフレット

当日使用資料

＊第２期鎌倉市環境基本計画＜第２期改訂版＞及び一部改訂
＊平成 25 年度版かまくら環境白書
＊鎌倉市地球温暖化対策地域推進計画
＊鎌倉市環境教育推進計画
＊鎌倉市エネルギー基本計画

８　会議内容

市長の挨拶、委員の自己紹介、事務局の自己紹介、出席人数の確認の後、会長及び職務代理者の選出に入り、全員一致で会長に猿田勝美氏が選出され、猿田会長は川口和英氏を職務代理者に指名しました。その後、配布資料の確認を行い、審議会の運営について討議した結果、会議及び会議録は公開となり、議事に入りました。

議題１　鎌倉市エネルギー実施計画の策定について

猿田会長　それでは議題１に入ります。議題１の「鎌倉市エネルギー実施計画の策定

について」事務局から説明をお願いします。

竹之内職員　議題１「鎌倉市エネルギー実施計画の策定について」説明

猿田会長　ただいまの説明について、ご質問、ご意見はございますか。私から質問ですが、資料２ページのＢの①ＬＥＤリースについてとありますね。また他の所には「ＬＥＤに取り換える」という記載もあります。これはどういうことですか。

植地次長　照明をＬＥＤに変える場合、工事で実施すると、経費は工事費として初年度に一括で支出しなければなりません。10年間のリースの場合、工事費にリース料が若干上乗せにはなりますが、分割で支出できるというメリットがあります。単年度で大きな予算を確保するのが難しい点から、リース契約という形態を他の自治体や県でも導入しており、それを参考にさせていただきました。

蛍光灯をＬＥＤに替えることで電気代が節約され、節約した分をリース代に振り替えて予算上は凹凸がない形で実施できるということで、実施しました。

郷原委員　前回までの会議でも質問した、ＬＥＤを減価償却資産としてリース化した場合の話題ですが、10年間のリース料と電気料の削減額の比較でどれだけメリットがあるかという点で、今の話では10年間リースの場合、経費的にはトントンであるということですね。

リースによるＬＥＤ化により、行政の予算でのメリットは基本的にはない。但し環境というものに延長した考え方をすれば、電気の使用量は下がるのだから納得できるのではないか、という話だと理解してもよいでしょうか。

リース期間終了後の器材は市の所有に移管されるのか、それともリース業者が撤去することになるのですか。

植地次長　リース期間の終了する10年後の社会情勢が今の段階では推測しにくい部分もありますので、器材の所有についてはその時点で協議することになっています。ただし、リース会社との打ち合わせの中では、リース会社としては資産価値がなくなっているため、使えるものは低額で再リースするか、改めて新しい器具を入れるリース契約の入札を実施するのか、あるいは全部市が貰い受けてその後は切れてしまったＬＥＤを順次換えていくのか、いずれかの方法をとることになるという話が出ています。

ですから、今の時点では10年後はどうするのか確定したものはなく、その時点でリース業者と協議していくことを考えています。

波多辺委員　ＬＥＤは年々非常に進歩していて、明るさもネルギーに対して随分効率良くなってきています。商工会議所の照明をＬＥＤに替えようかと実際に明るさを測ってみると、現在の蛍光灯の明るさを確保しようとすると、昨年の検討時点ではまだエネルギー効率が悪く暗かったが、今年は昨年よりは良くなっている程度なので、一括で替えてしまうと導入した時点での器材が10年間そのまま据置となり、省エネの観点からは、一括より数回に分けて交換したほうがよいのではないかと思います。

庁内ですでにＬＥＤ化している箇所について、２～３年前につけたところと、今

年つけたところでは、明るさも随分変わっています。今後は段階的にＬＥＤ化したほうが良いと思いますが、いかがでしょうか。

植地次長　数がまとまると、１本あたりの単価が安くなるというメリットがあります。また、ある程度の数がまとまらないと、リース会社も値段を下げられないということもあり、今回は一括リースにしています。

私は昨年度まで玉縄支所で施設を管理していた関係で、いくつかの部屋の照明をＬＥＤに替えたのですが、その時の経費と、今回のリースの経費を１本当たりの金額で比べると、リースの方が10年間支払う額を積み上げても半分ぐらいで済むというメリットがあります。

郷原委員　ＬＥＤ化は省エネで効果も高い、なおかつ行政が主体となってエネルギー基本計画を踏まえて率先実施していくということですが、こういった規模でやらなければ全く効果がないと思います。器材を管理するのに、段階的に交換していった場合、耐用年数の違うものにそれぞれ番号をふっていくことになります。それよりも、環境審議会としては、入札でのスケールメリットや、どれだけ電力のメリットがあるかを考える方がよいと思います。

猿田会長　実施計画の策定をこれからどうするか、３年ごとの計画の見直し、成果に対する評価も行わなくてはならないということもあります。

昔のＬＥＤ電球は、電球の下の方にしか光が届かず、横の方には光が行かなかったけれど、今は随分良くなり、全体に光が届くようになっています。それだけ効率がいいのですね。ただ、価格は高いです。

二松委員　市の施設のうち下水の浄化センター、名越と今泉のクリーンセンターは、エネルギーを大量に使っています。資料１－１の「公共施設における省エネルギー機器等の積極導入」について、クリーンセンターは、後で排熱回収がでてきますし、新焼却施設では徹底的に省エネをやるでしょう。浄化センターについては記載がないようですが、何か特別に取り組み、曝気（ばっき）※方法の工夫や新しいタイプのブロワーを入れるなど、今現在の設備を、省エネに切り替えるといったことはあるのでしょうか。

※廃水処理で，空気の吹き込みや攪拌（かくはん）などをして，液中に酸素を供給すること。有機汚濁物質を分解する微生物の働きを促す。

植地次長　焼却施設では、何年かして老朽化した時に部分的な改修をしていくようになっています。改修に合わせて新しい機器を導入して省エネ効果を上げるようなことはありますが、省エネのために機器を更新することはしていません。

浄化センターについても同様で、老朽化のために新しく更新する部分が出て来るかと思いますが、その際に新しい機器を取り入れて省エネ効果を上げる形で進めていくことになると思います。

二松委員　更新に合わせてやっていくというのはもちろん分かりますが、民間ですと、新しい設備を取り入れてどんどん技術改善していきます。

猿田会長　そのあたりは、行政と民間の違うところかもしれませんね。

郷原委員　下水道の施設は、施設としてきちんと確立している物だと思います。それを維持していく中で、耐用年数がきて、あるいは故障時に交換する等でない限りは、使える物を省エネだからあえて交換するという優先順位のつけかたは、税金を払っている市民の側からは納得できる税金の使い方ではありません。

二松委員　むやみやたらに動いている物を取り換えるというわけではなく、新しい設備を導入した場合と古い設備のままの場合の省エネ、経済効果、経費を比較して、バランスを持って新しいものを導入したほうがよい、となれば必ずやる訳です。それは民間では、やらなければならないことです。

植地次長　公共施設の場合、国の補助金を受けて建設している部分も大きいです。いったん補助金を受けると、何年間は稼働させるという縛りがあるので、その間は設備の更新が難しいということがあります。更新の場合も、新しい設備でも、補助金の対象になるもの、ならないものがありますので、そのあたりや予算も考慮しながら判断することになると思います。

猿田会長　廃棄物の処理施設でも補助金との関係がありますので、そのあたりの要件が加わってきます。

二松委員　難しいですね。民間とは違うということですね。

瀬口委員　京都市や茅ヶ崎市など、他市の事例をヒアリングしにいくのは結構だと思いますが、環境政策課の職員が行くのでしょうか。例えば市民ファンドにしても、既に情報は溢れていて、私自身もいろいろ関わっています。

　市民ファンドをなぜやるのかというと、市民自身が発電所を作りたいなと思うけれど、より多くの人を集めなければ出来ない。そこで、市が主体となってやるのではなくて、市民が主体となり、行政がサポートするという意味だと思いますが、鎌倉市の場合、市民の動きが遅いのかなと思っています。

　他の地域でどんどん発電所が出来ているのは、固定価格買取制度で高く買ってもらえるタイミングに合わせて、とにかく早くやらなければということで、事例発表会もいろいろな所で開催されています。情報収集に行くとよいのですが、鎌倉市の方とはお会いしたことがないです。そのあたりについて、どのように他市の事例収集をしているのか、それを市民と早く共有しなければ遅いと思います。

　１回だけワールド・カフェを実施するのではなく、市民と職員の方、議員が一緒に情報収集をしたり、プランニングしていくという継続的な勉強会やプロジェクトにしていかないと、実際の発電所を３年後、５年後に作りますでは遅いと思います。そのあたりの情報収集と協働については、どのようにやっているのか教えていただきたいです。

竹之内職員　事例発表会等については、可能な場合は行きたいと思い情報収集していますが、日程の都合などもあり沢山は行けていません。視察については、担当者と直接お話をしたり現物を直接見ることもでき、机上の情報収集とはまた違うので、実施を予定しています。

植地次長　いくつかの市民団体の方とは情報交換をしており、今回湘南・省エネネッ

トワーキングと協働で省エネの講座を行ったことを先ほどお話したのですが、ファンドというコンセプトで具体的にやり取りをしたことはありませんでした。

実際にファンドを立ち上げてということになりますと、かなりきめ細かいノウハウが必要になると思いますが、そのあたりをネットで集めた情報だけでなく、直接出向いて裏話まで聞けるのではないかということで、今回の視察は考えています。

京都市は、以前生ごみ処理施設に関連してやり取りがあったということや、鎌倉市と共通することも多いということで、今回は遠方ですが現地へ行き、細かいノウハウを入手出来たらと思っています。

瀬口委員　職員同士の交流はもっとやっていただいた方がいいと思っています。職員はこのように他市の事例を収集してきていますということを、関心を持っている市民と共有できる場がないと思っているので、そういう場を作っていってほしいなと思います。

猿田会長　ご要望として承りました。

二松委員　柏の葉スマートシティの太陽光発電、風力発電を視察に加えていただきたいと思います。

猿田会長　ご要望として承りました。

村田委員　市民目線だと、ＬＥＤは従来の電球に比べると高価で、いったい元が取れるのだろうかと思います。これを買うことで、どのくらいの効果があるのか、例えばプール１杯分の温室効果ガスが減るといった事が分かれば背中を押してもらえると思います。

他にもそうした素朴な疑問があると思うので、例えばワールド・カフェの時等に紹介したり、パンフレットに盛り込んだりすれば、市民の意識が高まるきっかけになると思います。

川口委員　リーディングプロジェクトを始める時に、まずは出来ること、効果が高いことをやりましょうという話でした。１つはＬＥＤというのが非常に分かりやすくて、これだけコストが下がる等が出ていますので、ぜひ進めて頂きたいと思います。

スマートシティについては、柏の葉や北九州などいろいろな所がやっていますが、工業エリアと、鎌倉市のような歴史と緑が多いまちと、場所によって事情がだいぶ違うと思います。ですから、鎌倉市らしいスマートシティというのがあると思うのです。

市民の方にぜひ参画して頂くことが非常に大事で、市民の方が欲しいもの、今出ている中ではＬＥＤ、あとは地域防災ですね。先程ご説明がありましたが、これも補助金を利用しているということで縛りがあると思うのですが、必要なものなので、防災拠点に工夫がされて、その中でエネルギーに関して効果があるもの、こういうタイプのものを積み上げていく事がまず最初だと思うのです。

まちづくり系の分野だと、津波対策関連事業などたくさんの事業が立ち上げられています。エネルギー関係も東日本大震災以降、津波被害の可能性のあるエリアでは、いろいろなものが出来ているようなので、そのあたりもご研究頂いて、使える

ものはどんどん使っていく方がいいと思います。

市民の方の表彰についても、以前の審議会の中で、昨年度実施したワールド・カフェでは市民の方が色々な意見をお持ちだという紹介があったので、民間の方や団体の方の知恵をうまく生かしていってほしいと思います。

内山委員　鎌倉市といえば観光ということで、観光には相当の位置づけがあると思うのですが、観光におけるエネルギー政策というものはないのでしょうか。他の自治体ではいろいろ出て来るのだが、と疑問に思いました。

それから、植木剪定材のたい肥化以外のエネルギー化について、ご説明頂きたいと思います。

植地次長　今回実施計画を作成するために、庁内各課にエネルギーに関する施策をあげてください、と調査をいたしました。当然観光商工課にも呼びかけをして、先ほどご紹介した地産地消の花火の情報があがってきました。ご指摘いただいたように他市でも事例があるということなので、今後何度かヒアリングを実施していきたいと思います。

また、植木剪定材についてですが、植木剪定材はごみと分別して収集し、それを堆肥化していますが、堆肥化以外では固形燃料にするノウハウが進んでいます。燃料化のルートも確保できそうな状況です。実際には資源循環課が委託事業でやっていますので、資源循環課と調整中です。今後進展がありましたら、ご報告させて頂きます。

猿田会長　観光商工課からの施策があまり出ていないということですが、鎌倉市を訪れる方に何をして頂くか、観光施設や商店街が何をするかということで、大きな目で見れば23ページに掲載されているロードプライシングの問題は、鎌倉市として観光との関係でどうするかという問題でもあります。ロードプライシングはロンドンやシンガポールで実施していますが、日本でどの自治体がやるかというと、国のロードプライシングの検討の委員もやってきましたが、なかなか難しいです。

鎌倉市は昔から環境手形を出して、公共交通機関を使ってくださいと呼びかけてきた実績もあります。それを観光、環境の関係でどうするかです。省エネにつながり地球温暖化にも貢献する。ロードプライジングの視点で何ができるのかを検討してみることは重要だと思います。

植木剪定材の問題は固形燃料化の方向でという話ですが、失敗している都市も多いので充分検討したうえで実施して下さい。

波多辺委員　ロードプライシングの問題がでましたが、私はロードプライシングの検討委員会の委員をやっています。そもそも道路というものは代表的な公共財であり、道路法で「道路無料公開原則」があります。それに対して課金をするという事は、条例化をしなければなりません。条例化できる状況かどうか、今までは京都市も東京都もできませんでした。まして現在日本で一般道路で課金している所はなく、実際には難しいです。委員会で検討はしていますが、長期的な検討になると思います。

郷原委員　ロードプライシングはコンセンサスを得られるわけがないと思います。検

討すること自体無意味で、道路に課金することに同意がとれるとは思いません。環境面に配慮するなら、むしろ循環バスの充実が重要です。観光客は歩行して観光地を巡ってはいますが、せっかく観光地なので、循環バスも単なる路線バスではなく、観光仕様にしたほうがいいです。マイカーの乗り入れが環境面でのマイナス要因だということだが、観光エリアの中で公共用の移動手段の施策をなぜ考えていかないのかと、常々思っていました。

波多辺委員　市東部とＪＲ鎌倉駅を結ぶ路線について、通常と逆回りに循環するバスの社会実験についてですが、委員会で、今のハード面の状況の中で効果的な渋滞解消、今すぐできることを考えようということで、出てきたことがこの「逆回り」です。それ以外についても、いろいろ検討しています。

猿田会長　今後また進捗状況によってご意見が出て来ると思います。それでは議題２に移りたいと思います。議題２について事務局から説明をお願いします。

議題２　鎌倉市環境基本計画の見直しについて

柳沢補佐　議題２「鎌倉市環境基本計画の見直しについて」説明

猿田会長　ただいまの説明について、ご質問、ご意見はございますか。今度の見直しは平成28年度以降、第３期改訂版ということですから、来年度の審議会で、市長からの諮問事項になりますね。今年度は、それに必要な資料等を集積することになるでしょう。

　それから、今年度のスケジュールとしては、「環境白書」が入ってこなければいけませんね。

柳沢補佐　第２回の審議会での審議を予定しています。

猿田会長　特にご意見がなければ「その他」に移らせていただきます。では、事務局から説明をお願いいたします。

植地次長　事務連絡について説明

猿田会長　それでは次回の環境審議会は、日程が決まりましたら事務局からお知らせください、よろしくお願いします。以上で本日の議事を終了しましたので、閉会といたします。